

## 令和2年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

西工の伝統と創立時の校憲に基づく「尊敬される職員の育成」に取り組み、大阪の産業界を担うものづくり人材を育成する大阪一の工科高等学校をめざす

- ものづくり教育により、実践力と社会の技術の進展に対応できる力を身に付けさせるための指導を行い、社会で活躍できる生徒を育成する
- 全ての教育活動において、チャレンジ精神と協働性を醸成する指導を行い、様々な課題を発見し、解決できる力を持つ生徒を育成する
- 実践的技能養成重点校として、資格、検定、コンテスト、競技会、企業等との連携など様々な活動に取り組み、意欲ある生徒を育成する

## 2 中期的目標

## 1 確かな学力と学びに向かう力を育成する学校

- (1) 社会人として必要な力を身につけ、生涯にわたって学び続ける意欲と姿勢を涵養するため、基礎・基本の学力を定着させるとともに、専門分野の技術・技能の育成を行う。
- ア 授業内容・技術指導内容・評価の改善に取り組み、生徒の学びに向かう意欲と授業満足度を向上させる。
- イ 少人数展開の授業や ICT 機器の活用とともに、公開授業や研究授業を積極的に推進し、教員の協働により学校全体の授業力を向上させる。
- ウ 全ての教育活動において、生徒の協働性を育成するとともに、コミュニケーション力、課題発見・解決する力、プレゼンテーション力を育成する取り組みを実施する。
- \*生徒向け学校教育自己診断「授業はわかりやすく行われている(1年生)」肯定率(H29:75%、H30:69%、R1:71%)を向上させ、令和4年度に85%以上を達成する。
- \*生徒向け学校教育自己診断「先生は学習で自分が努力したことを認めてくれる(1年生)」肯定率(H29:75%、H30:68%、R1:71%)を向上させ、令和4年度に85%以上を達成する。
- (2) 生徒に自信と意欲を持たせるために、実践的技能養成重点校として、製造現場で役立つ国家資格・各種検定試験等の取得・合格をめざすとともに、各種コンテスト等への応募や競技会等の出場、企業等との連携などの体験活動に積極的に取り組ませる。
- \*卒業までに3つ以上の検定・資格を受検させ、その取得・合格をめざす。Jr.マイスター顕彰(H29:10人、H30:17人、R1:15人)15人以上を維持する。

## 2 規範意識を高め、夢と志を持ち、豊かな人間性を育成する学校

- (1) 教員が生徒一人ひとりの学習歴や生活背景を理解し、生徒との信頼関係に基づき毅然とした生活指導を行い、問題行動の未然防止や再履修生徒や転・退学生徒の減少に努める。
- 挨拶指導・遅刻防止指導・携帯電話指導・校内美化指導・通学時の自転車マナー指導を徹底するとともに、学校全体で5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)を推進する。
- \*令和元年度、遅刻生徒数1,000以下を達成。(H29:1491件、H30:1730件、R1:738件)1,000人以下を維持する。
- \*令和元年度、転学、退学生徒数の合計で前年度比29%減を達成。(H29:67人、H30:45人、R1:32人)令和4年度までに、さらに20%減を達成する。
- (2) 人権教育や様々な講演会・研修を推進し、社会人に相応しい人格と態度を養う。
- 発達段階に応じた人権教育や安全指導、薬物乱用防止、マナー向上等の多彩な講演会・研修を実施する。
- \*生徒向け学校教育自己診断の「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」肯定率(H29:77%、H30:78%、R1:76%)を向上させ、令和4年度に80%以上を達成する。
- (3) 生徒の自己実現への支援に努める。
- ア 教育相談体制の充実を図り、生活指導部・学年・系の連携による生徒支援と教育相談活動を行う。
- \*学校教育自己診断の「担任以外にも気軽に相談できる先生がいる」肯定率(H29:69%、H30:63%、R1:62%)を向上させ、令和4年度に75%以上を達成する。
- イ 三カ年を見通した進路指導計画に基づき、キャリア教育の充実に努め、生徒の豊かな勤労観・職業観の育成に取り組む。
- \*生徒向け学校教育自己診断の「将来の進路や生き方について考える機会がある」肯定率(H29:73%、H30:78%、R1:79%)を向上させ、令和4年度に85%以上を達成する。
- ウ 生徒の夢や希望を実現するために、発達段階に応じた系統的なキャリア教育・職業教育を行い進路指導の充実を図る。
- \*就職率100%を堅持する、公務員や大学進学決定率100%。離職率調査(H29:34%、H30:33%、R1:51%)において、令和4年度までに3年以内の離職率30%未満を達成する。
- (4) 読書活動を推進し、生徒に読書の大切さを指導する。
- ア 授業での図書館利用を推進する。
- イ 図書館の開館時間を確保し、図書貸出し数を増やす取り組みを行う。

## 3 安全安心で魅力ある学校

- (1) 生徒会活動、部活動の活性化を推進する。
- ア 学校説明会、体験入学等の学校行事に生徒が主体的かつ積極的に関わるように指導していく。
- イ 部活動の活性化に向けた取り組みを積極的に推進する。 \*令和2年度、部活動の加入率50%以上を達成。(H29:44%、H30:48%、R1:56%)50%以上を維持する。
- (2) 公開授業を継続するとともに、PTA活動や学校運営協議会等の一層の充実を図る。
- \*保護者向け学校教育自己診断の「この学校の学校行事(体育祭・文化祭・授業参観等)に参加したことがある」肯定率(H29:52%、H30:63%、R1:62%)を令和4年度までに70%以上に引き上げ、これを維持する。
- \*保護者向け学校教育自己診断の「学校では、PTA活動は活発である」肯定率(H29:64%、H30:63%、R1:64%)を令和4年度までに70%以上に引き上げ、これを維持する。
- \*保護者向け学校教育自己診断の「学校は、教育情報について提供の努力をしている」肯定率(H29:80%、H30:73%、R1:68%)を令和4年度までに80%以上に引き上げ、これを維持する。
- (3) 生徒に対しての防災教育を推進し、防災意識を高めるとともに、防災マニュアルの更なる見直しに取組み、学校の危機対応能力を高める。
- \*生徒向け学校教育自己診断の「学校で、事件・地震や火災などが起こった場合、どう行動したらよいか。知らされている」の肯定率(H29:81%、H30:74%、R1:74%)を令和4年度までに80%に引き上げ、これを維持する。
- (4) 各種のイベントに積極的に生徒が関わるとともに、小中学校への出前授業に取り組み、学校の魅力発信に取り組む。
- 産業教育フェア、校外でのものづくりフェスタ等と連携したイベント等への生徒の積極的な参画を推進するとともに、教員による小中学校への出前授業を推進する。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析(令和3年1月実施)	学校運営協議会からの意見
<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度はコロナ禍でのアンケート実施のため、生徒及び教員はGoogle Classroom、保護者はCMSのアンケート機能を活用してリモートで初めて実施。</li> <li>回収率(生徒28%・保護者11%・教員53%)</li> <li>生徒の集計方法を学年ごとから、3学年まとめた集計に変更した。その結果、中期目標・本年度の評価指標にある、「1学年の肯定率」が取れなくなった箇所が発生した。</li> <li>今年度は準備や生徒、保護者、教員に対しての周知が十分ではなく回答率は低かったが、「学校に行くのが楽しい」「授業は分かりやすく行われている」「先生は、学習で自分が努力したことを認めてくれる。」の回答が多く、日々の過ごし方の大切さを感じさせられた。</li> </ul>	<p>(第1回) 6月24日(コロナ禍のため規模を縮小して実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>このような折だが、生徒のために文化祭と体育祭は短時間になってもいいので実施してほしい。</li> <li>新型コロナウイルスで世の中が変わる。リモートやITなどで便利になるかもしれないが、「アナログがあり、デジタルがある」という意識は必要。学校は原点である。「アナログの大切さ」を必ず教えてやってほしい。</li> </ul> <p>(第2回) 10月21日(コロナ禍のため規模を縮小して実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭にネット環境が整っていない生徒への手立てはできているか。</li> <li>中学に説明に来てもらい就職だけでなく進学もあるということがよく分かった。</li> <li>出願方法など従来通りなのか、WEB出願ができるのか心配している。</li> <li>目的意識をもって生徒が頑張れる環境を作ってもらいたい。</li> </ul>

- ・次年度に向けて実施方法や周知、分析についての見直しが必要である。
- ・以下に「よくあてはまる」「ややあてはまる」の合計を過去2年分と比較する。

## 1. 学校へ行くのが楽しい。

	H30	R01	R02
生徒：	66%	61%	82%
保護者：	76%	73%	80%

## 2. 授業は分かりやすく行われている。

	H30	R01	R02
生徒：	68%	67%	77%
保護者：	64%	60%	72%

## 3. 先生は、学習で自分が努力したことを認めてくれる。

	H30	R01	R02
生徒：	68%	67%	80%

## 4. 担任以外にも気軽に相談できる先生がいる。

(保護者：学校は保護者の相談に適切に応じてくれる。)

	H30	R01	R02
生徒：	63%	62%	74%
保護者：	83%	78%	73%
教員：	88%	86%	93%

## 5. 先生の指導は納得できる。

(保護者：学校の生徒指導は共感できる。)

	H30	R01	R02
生徒：	52%	52%	63%
保護者：	72%	71%	70%

## 6. 将来の進路や生き方について考える機会がある。

(教員：生徒一人ひとりが興味・関心、適正に応じて進路選択ができるようにきめ細やかな指導を行っている)

	H30	R01	R02
生徒：	78%	75%	90%
保護者：	90%	85%	89%
教員：	90%	89%	91%

## 7. 先生はいじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。

(教員：いじめ(疑い含む)が起こった際の体制が整っており、迅速に対応できる。)

	H30	R01	R02
生徒：	72%	71%	82%
保護者：	76%	74%	78%
教員：	84%	90%	86%

## 8. 学校行事(体育祭・文化祭・修学旅行)は楽しく行えるように工夫されている。

(教員：学校行事が生徒にとって魅力があるものとなるよう、工夫・改善を行っている。)

	H30	R01	R02
生徒：	63%	63%	64%
教員：	64%	71%	62%

## 9. 命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。

	H30	R01	R02
生徒：	78%	72%	84%
保護者：	82%	82%	85%

## 10. 学校で事件・地震や火災などが起こった場合、どうすればよいか知らされている。

	H30	R01	R02
生徒：	74%	74%	84%

## 11. 学校の施設は授業や生活がしやすいように整理整頓されている。

	H30	R01	R02
生徒：	62%	65%	70%
保護者：	72%	70%	75%

## 12. 学校行事に参加したことがある。(保護者)

	H30	R01	R02
保護者：	56%	62%	57%

## 13. 学校ではPTA活動が活発である。(保護者)

	H30	R01	R02
保護者：	63%	64%	57%

## 14. 学校は教育情報について提供の努力をしている。(保護者)

(教員：教育活動に必要な情報について生徒・保護者への周知に努めている。)

	H30	R01	R02
保護者：	71%	68%	68%
教員：	78%	84%	81%

## 15. 教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている。(教員)

	H30	R01	R02
教員：	84%	75%	81%

## 16. カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている。(教員)

	H30	R01	R02
教員：	68%	90%	79%

## 17. 教育相談体制が整備されている。(教員)

	H30	R01	R02
教員：	86%	82%	81%

## 18. 生徒の実態を踏まえ個別の指導内容・指導方法について工夫・改善を行っている。(教員)

- ・不登校などの生徒にコロナの影響はないのか。
- ・大学でもオンライン授業を行う中、カウンセラーへの相談が急増した。
- ・企業の求人や採用枠の変化はないのか。
- ・受験企業のマッチングはどうしているか。

(第3回) 2月12日(コロナ禍のため規模を縮小して実施)

- ・学校教育計画のめざす学校像は頻繁に変えるものではないのでこれでよいと思う。中期目標の数字も確実に上がっている。今後教育のIT化は加速するだろうが、教員余力を生み出すためにも活用は進めるとよい。不慣れなこともあると思うので活用のために研修をやることも必要。
- ・有事で大変な1年だったと思う。少子化で子どもが少ない中、一人でも多くの生徒が集まるよう魅力を発信していることが分かった。西野田のいいところを知ってもらい呼びかけずともたくさんの生徒が来てくれる学校をめざしてほしい。IT化が進むことは仕方ないが、人間関係を構築することが大切なのでバランスをとって欲しい。
- ・「学校に行くのが楽しい」という回答が多かったのは、コロナ禍において今まで当たり前だった友達と会うことが当たり前でなくなり、立ち止まり考えたからではないかと思う。日常のありがたさに気が付けたのかもしれない。
- ・抑うつになる高校生が増えたと聞いている。ITだけでなく対面の大切さを強調したい。
- ・修学旅行をはじめ様々な行事がなくなり、代替の行事をと先生方が取り組んでいる姿を生徒は見ているのではないかと思う。
- ・ITやオンラインとツールは新しくなっても対面の教育の本質は変わらないし外せないと思う。方法は時代とともに変わっても大切なのは大切にして頑張りたい。
- ・抑鬱になる高校生が増えたと聞いている。ITだけでなく対面の大切さを強調した

◎今後、R2年度評価とR3年度の中期目標については作成次第、各委員に個別に見ていただき、了承をいただくこととした。

H30 教員： 74%	R01 74%	R02 81%
19. 教育活動について教職員で日常的に話し合っている。(教員)		
H30 教員： 94%	R01 80%	R02 76%

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力と学びに向かう力を育成する学校	<p>(1) 学力の定着と学びに向かう姿勢の育成</p> <p>ア 実習・授業内容を改善し、生徒の興味関心を高める</p> <p>イ 組織的な公開授業及び研究授業</p> <p>ウ コミュニケーション力の育成を図る</p> <p>エ 1年生の基礎学力向上及び将来の職業へ繋がる専門を学習する大切さを醸成する取り組みを推進する</p> <p>(2)</p> <p>ア 資格・検定等への積極的な挑戦と、その取得・合格をめざした指導を行う</p> <p>イ 外部連携による体験活動の推進</p>	<p>(1)</p> <p>ア PBLの推進に計画的に取り組み、専門分野の実習等の改善に取り組み魅力を向上させる</p> <p>イ 授業改善(わかる授業)の取り組みとして、ICT機器の活用、教科横断型の授業の推進を図るため、授業見学や研究授業などを計画する 実習の指導方法・評価の改善に組織的な取り組みを行い、生徒の満足度を向上させる</p> <p>ウ プレゼンテーション力育成のために、課題研究発表大会をはじめ授業や実習での発表機会を取り入れる</p> <p>エ 英数国での少人数・TTでの授業を行うとともに、ガイダンス科目では系・専科選択のための情報提供を十分に行い生徒のキャリアアンカーの醸成を図る また、基礎学力調査を活用した、生徒の学習意欲の向上にも取り組む</p> <p>(2)</p> <p>ア 資格取得、各種検定試験の合格、各種コンテストへの応募や競技会等への参加を積極的に推進していく</p> <p>イ 企業等との連携授業や校外での実習・見学・体験活動等を実施する</p>	<p>(1)</p> <p>ア PBLの研究と教科横断型の授業に取り組む 新しい授業の取組みの満足度 70%以上 [R1:70%]</p> <p>イ 研究授業回数 12回 [R1:10]、授業見学参加率 70% [R1:50%]、1年生の授業満足度 75% [R1:72%]</p> <p>ウ 課題研究発表大会での肯定的意見を 80% [R1:77%]</p> <p>エ 基礎学力調査による学習に向かう姿勢ができている生徒 85% [R1:83%]</p> <p>(2)</p> <p>ア 資格・検定の一人当たりの受験率を 115%以上 [R1:110%]、コンテスト等参加者 190人 [R1:182人]、Jr.マイスター顕彰 15人以上を維持 [R1:15人]</p> <p>イ 実施件数 100件を維持 [R1:100件]</p>	<p>(1)</p> <p>ア 機械系・電気系が協働した系横断型のPBL(課題解決型学習)を取り入れた課題研究モデルを実施。コロナ禍の影響でポスターセッションなどできなかった取組みもあり、満足度は計れなかった。(－)</p> <p>キャリアガイダンスにおいて『西工生として大切にしたいSを探そう。「5S+Sを提案しよう!』というテーマで取り組みを行った。生徒からは新しいSの発見や発表が難しかったなどのコメントがあった。</p> <p>※5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)</p> <p>イ 研究授業回数 7回 (△)</p> <p>※10年経験者研修等以外の研究授業は教室での密集をできるだけ避けることに配慮して今年度は実施できなかった。指定研修以外の研究授業実施に向けて、感染症対策も含めて計画的に取り組んでいかなければならない。</p> <p>授業見学：新型コロナウイルス感染症対策をふまえ、期間を設定しての授業見学は実施せず。研究授業等での授業見学のみとした。(－)</p> <p>※新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた新しい授業見学の設定が必要。</p> <p>授業満足度 76.7% (○)</p> <p>ウ 課題研究発表大会での肯定的意見 83.6% (○)</p> <p>エ 学習に向かう姿勢ができている生徒 83.4% (○)</p> <p>※目標に僅かに届かなかったが、生活面において決められたことができ、自主的な行動ができる生徒が着実に増加しつつある</p> <p>(2)</p> <p>受験率 105%</p> <p>ア 資格取得計</p> <p>※ 受験率は105%であったが、コロナの影響により検定等の中止もある状況下においても、生徒は前向きによく取り組んだ。</p> <p>コンテスト参加生徒 97人 (－)</p> <p>Jr.マイスター顕彰 22人 (○)</p> <p>イ 実施件数 100件を維持 (○)</p> <p>※連携の取組みは目標を達成しており、今後も継続する</p>

## 府立西野田工科高等学校

<p>2 規範意識を高め、夢と志を持ち、豊かな人間性を育成する学校</p>	<p>(1) 規範意識を醸成する生活指導の取り組み ア 挨拶運動・遅刻防止指導を推進 イ 5Sの推進、校内美化運動の推進</p> <p>(2) 発達段階に応じた人権教育の充実</p> <p>(3) 生活指導部と連携した教育相談体制の充実</p> <p>(4) 計画的な進路指導の推進</p> <p>(5) 読書活動の推進</p>	<p>(1) ア 挨拶・遅刻指導・スマホ等指導、通学時の自転車マナー指導を徹底し、生徒の規範意識を醸成する イ 全ての教育活動で、ものづくりの基本となる5Sを徹底し、学校環境の改善に取り組む</p> <p>(2) 学年別人権教育の充実を図る</p> <p>(3) 教育相談活動を充実させ、安全安心な学校環境をつくる。SC、SSWとの連携による生活指導体制を構築し、個々の生徒の実態に応じた指導を実践する</p> <p>(4) 就職率100%を堅持するとともに、公務員や大学進学を希望の生徒が100%合格できるよう指導する 離職率調査を実施し、進路指導に活かす</p> <p>(5) 図書館の利用を促し、読書の大切さを指導する ア 授業での図書館利用を推進する イ 図書館の開館時間を確保し、図書の貸し出し数を増やす取り組みを行う</p>	<p>(1) ア 遅刻数1000件以下を維持[R1:738件、] イ 定期的な整理・清掃活動の実施24回[R1:21回]学校環境の満足度70%以上[R1:67%]</p> <p>(2) 生徒人権教育の実施回数3回 取組みに対する肯定率80%[R1:76%]</p> <p>(3) 学校教育自己診断(生徒)「担任以外にも気軽に相談できる先生がいる」70%[R1:62%]</p> <p>(4) 離職率調査を実施し3年後の離職率30%以下[R1:51%] 進路情報を広く生徒に周知する</p> <p>(5) ア 授業での利用数50回[R1:36回] イ 生徒向けの本の貸出冊数、利用人数を10%増加させる[R1:14冊]、[R1:664人]</p>	<p>(1) ア 遅刻数 R2:682件(O) イ 定期清掃活動等実施回数 15回(△) ※5Sを定着させるため継続する 学校環境の満足度70.4%(O) ※消毒用アルコール(自動噴霧付含む)を教室前、校舎出入口などに設置した。</p> <p>(2) 人権教育実施回数3回 取組みに対する肯定率84%(O) ※数値達成はしているが、教職員はじめ生徒のさらなる人権意識の向上が必要。</p> <p>(3) 「担任以外にも気軽に相談できる先生がいる」の回答74%(O) ※さらに生徒が相談しやすい環境や雰囲気づくりを行う必要がある</p> <p>(4) 3年後の離職率は、39.8%であるが「自己実現のための離職」を除くと21.9%であった。(O) ※離職率には「自己実現のための離職」が含まれる。(これを除くと21.9%)。 ※進路だよりの発行(年3回)や掲示物を充実させ、進路情報を広く生徒に周知。</p> <p>(5) ア 授業での利用数59回(O) ※利用が更に進むように授業計画への組み込みの検討が必要 イ 生徒向けの本の貸出冊数19冊、利用人数441人(O) ※休業期間や分散登校期間を考慮すると達成されていると言える。今後も居場所としての利用を推進する</p>
<p>3 安全安心で魅力ある学校</p>	<p>(1) 生徒活動の活性化 ア 学校の広報活動に生徒が関われるようにする イ 部活動が活性化するように学校全体で取り組む</p> <p>(2) 開かれた学校づくり 授業公開を行うなど、PTA活動や学校運営協議会等の充実を推進</p> <p>(3) 防災等訓練等を通して生徒の意識の向上を図る</p> <p>(4) 外部イベントへの積極的な参加と情報発信を行う</p>	<p>(1) ア 学校説明会、体験入学等の学校行事に生徒が主体的かつ積極的に関わるように指導していく</p> <p>イ 部活動の活性化に向けた取り組みを積極的に推進する また、部活顧問の長時間勤務の解消のために、負担均衡を図り長時間勤務者の減少を図る</p> <p>(2) 年2回の公開授業を継続するとともに、PTA活動や学校運営協議会等の一層の充実を図る</p> <p>(3) 地震、津波などの災害を想定した防災訓練を実施し、生徒の防災に対する意識を高める。教職員の対応マニュアルを見直し、学校の危機対応力を高める</p> <p>(4) 外部イベントに生徒が関わるように指導するとともに、出前授業等により学校の魅力を発信する ア 西淀川ものづくりまつり、大正ものづくりフェスタ等と連携したイベント等へ参加を推進する イ 小・中学校への出前授業等に取り組み、学校の魅力を発信する</p>	<p>(1) ア 体験入学や学校説明会に関わる生徒数80人以上を維持[R1:82人]</p> <p>イ 部活動加入率50%以上を維持 全教員が部活動顧問に就く体制を整える。</p> <p>(2) 学校教育自己診断(保護者)「学校の学校行事に参加したことがある」を10%増加[R1:62%] 学校教育自己診断(保護者)「学校では、PTA活動は活発である」を10%増加[R1:64%]</p> <p>(3) 学校教育自己診断(生徒)「地震や火災等への行動について理解している」を80%[R1:74%]</p> <p>(4) ア 各種イベント等の生徒の参加回数を維持[R1:18回] イ 教員による小中学校への出前授業等の実施回数を維持[R1:11回]</p>	<p>(1) ア 中学校訪問や学校説明会等に参加した生徒数29人(-) ※今年度は新型コロナウイルス感染症感染防止対策により生徒の参加は控えた。参加した生徒からは自信を得られたと好評であった</p> <p>イ 部活加入率52.4%(O) ※年度(学年)によって増減があるものの、今後も加入率50%以上を維持する</p> <p>(2) 「学校の学校行事に参加したことがある」の回答57%(-) 「学校では、PTA活動は活発である」の回答57%(O) ※新型コロナウイルス感染症感染防止対策により行事自体がほとんど中止となったが限られた中で参加は良好、活動も活発に行えた。 ※学校から保護者への情報発信を充実させる工夫が必要</p> <p>(3) 「地震や火災等への行動について理解している」の回答84%(O) ※生徒の意識を高める啓発を継続して行う必要がある</p> <p>(4) ア 生徒が参加した校外でのイベントの回数2回(-) ※今年度は新型コロナウイルス感染症感染防止対策の一環として動画による参加が2回あったのみである。 イ 教員による小中学校への出前授業等の実施回数はコロナ禍の影響により0回 ※例年、実施校からの評価は高いので、企画を継続する</p>